

令和4年度 事業報告書

社会福祉法人大館感恩講

目 次

法 人 本 部	2
白百合ホーム	4
大館乳児保育園	10
大館市立釈迦内保育園	17
大館市立十二所保育園	27
大館市立東館保育園	29
大館市立西館保育園	31
奨学基金	33
土地貸付・駐車場業	34

令和4年度大館感恩講本部事業報告書

1. 事務局体制・経営状況

引き続き専任事務局長を配置し、3名の事務局次長と1名の事務員（いずれも兼務）の事務局体制によって機能を維持している。

事業計画に則り、指定管理の再指定に向けた結果、令和5年度から13年度までの再指定を受けることができた。

また利用者不足によって懸念されていた白百合ホームの暫定定員設置については、厚労省の新型コロナウイルス感染症特別対策としての「定員算定特別措置」によって令和5年度においても暫定定員に陥らないことが確定している。更に県内各福祉事務所や岩手・青森両県の福祉事務所を訪問して需要の開拓を図った結果、新規コロナウイルス3月末では18世帯の在籍を見込むまでに回復している。

新型コロナウイルス感染症の罹患職員数(濃厚接触による数を含む)は、延べ63名。出勤停止延べ日数は456日に上った。利用者(児)の罹患については大館市子ども課・嘱託医と緊密に連携して対応した。

コロナ関連で多くの研修がリモート研修となったことを受けて、本部会議室にLAN回線を設置して研修に資した。

全国で相次いだ保育所の不祥事に伴い、その都度全施設に情報を提供して意識づけを図った。8月13日の水害に関し各施設の状況を視察。十二所保育園は断水のため16日を休園とした。東館保育園周辺地区は冠水被害が出たが保育園は物置の浸水と駐車場の土砂留出にとどまった。

2. 会議の開催

(1) 理事会の開催

☆ 令和4年6月10日

令和3年度事業報告並びに決算の認定について

令和4年度資金収支補正

☆ 令和5年3月20日(書面審議)

育児・介護休業規則の全面改正について

就業規則の全面改正について

評議委員会の招集について

☆ 令和5年3月29日

令和4年度資金収支補正予算(第1次～第2次)案

令和5年度事業計画案

令和5年度資金収支予算案

幹部職員の異動について

(2) 監事会の開催

☆ 令和4年5月20日

令和3年度 事業報告並びに貸借対照表・財産目録・資金収支並びに事業活動収支計算書及び収支計算書の附属明細書

(3) 評議員会の開催

☆ 令和4年6月27日(定時評議員会)

令和3年度事業報告並びに決算の認定について

令和4年度資金収支補正予算案(第1次)

監事の選任について

☆ 令和5年3月30日(定時評議員会)

令和4年度資金収支補正予算(第1次～第2次)案

令和5年度事業計画案

令和5年度資金収支予算案

3 事業の運営

(1) 会議の開催

☆ 園長会議(毎月開催)

大館市の乳幼児の減少動向と近未来の保育所経営(毎月)

新型コロナウイルス感染症対策(随時)

指定管理更新への対応

児童虐待、人権侵害事案に関する協議。意識の徹底

☆ 経営会議(随時開催)

新たな指定管理制度への対応

☆ 主任会議(毎月)

☆ 職員養成施策

研修制度実施要綱に基づき①R(リーダー＝主任候補者)研修・②E(園長候補者)研修③新任職員研修④3年次研修を開催

4. 表彰・顕彰

釈迦内保育園の佐々木和子園長(事務局次長)が社会保険庁長官表彰

白百合ホームの小林施設長が全国社会福祉協議会会長表彰

令和4年度 白百合ホーム事業報告書

1. 利用者の状況

① 月別在籍世帯数（3月1日現在） 定員充足率 56.0% (世帯)

月日	世帯数	人員	月日	世帯数	人員	月日	世帯数	人員
4.4.1	10	32	4.8.1	12	37	5.12.1	10	29
5.1	11	35	9.1	12	37	5.1.1	12	34
6.1	11	35	10.1	10	30	2.1	13	36
7.1	12	37	11.1	10	29	3.1	16	43

定員充足率 57.9% *定員充足率57.9%は月平均11.58世帯である。

・4年度中の入退所

入所 13世帯30名（入所理由 夫からのDV 3世帯8名、家庭環境10世帯22名）

入所世帯中DV被害者の割合は35%(7世帯)であった。（令和5年3月1日現在）

退所 5世帯14名（退所理由 自立2世帯6名、実家1世帯2名、婚姻2世帯6名）

・母子保護の実施機関の内訳（令和5年3月1日現在）

大館市福祉事務所 12世帯34名

他県他市福祉事務所 4世帯 9名

16世帯43名

・施設入所に繋がるよう、大館市以外の秋田県内の福祉事務所7か所、青森県内4か所と岩手県内福祉事務所2か所に、リーフレットを持って説明とお願いをした。訪ねた福祉事務所の内、2福祉事務所から入所があったため、今後も引き続き秋田県内外の福祉事務所を訪問し施設の説明などの活動を行って行く。

・大館市社会福祉協議会を通じて、民生委員・民生児童委員の会議の情報を得て、その会議の場で施設紹介の文書を配布させていただき、施設の紹介活動を行った。

・令和4年度は、秋田県が「北海道・東北ブロック母子生活支援施設研究協議会」の当番県であったことから、特定妊婦や妊娠中の母子の支援を行った事例について施設機能などについて発表を行った。新たに「妊娠SOSネットワーク秋田」が立ち上がったことから、妊娠に関する相談等があった際に状況に応じて施設の紹介を行って頂くなど連携の確認を行った。

2. 施設の管理

職員配置

施設長	常勤	1名
主任母子支援員	常勤	1名
母子支援員	常勤	2名
主任児童支援員	常勤	1名
児童支援員	常勤	2名
保育士兼母子支援員	常勤	1名
調理員兼保育補助員	常勤	1名
一時預かり事業専任保育士	常勤	1名
保育補助員	常勤	1名
清掃員	非常勤	1名
嘱託医	非常勤	1名
計		13名

3. 職員の研修

関係機関が主催する次の研修に延べ11名が参加した。

月 日	研 修 名	備 考
7月13日(水) ～27日(水)	第43回 全国母子生活支援施設職員研修会	オンライン開催
9月15日(木)	令和4年度 北海道・東北ブロック母子生活支援施設研究協議会	オンライン開催 秋田県担当
10月25日 (金)～11月 8日(火)	第65回 全国母子生活支援施設研究大会	オンライン開催
11月14日 (月)	令和4年度 秋田県母子福祉協議会 現地協議会及び職員研修会	秋田県社会福祉会館
1月31日 (火)	少年指導員・保育士 分科会	オンライン開催
2月21日 (火)	母子支援員 分科会	秋田県社会福祉会館

4. 利用者の支援

- ① 全国母子生活支援施設協議会が作成した「母子生活支援施設倫理綱領」の理念の徹底を図り、支援者としての基本的意識醸成に努めた。

- ② 利用者・福祉事務所・担当職員・施設長の4者で支援内容について検討し、自立支援計画策定についての合意形成を行った。計画については約6か月後の見直しを行い状況の把握に努めた。
- ③ 母から意見が言いやすく話し合える機会とするため、毎月の母への伝達事項は個別に行うよう見直しをした。

行事の実施に当たっては、新型コロナウイルス感染症対策のため、集会を伴う事業は行わず、予定していた行事についてはその時期に利用者家族に折詰弁当やケーキなどを配布して対応した

5. 児童の健全育成

専任の児童支援員3名などが、母親の働いている間、学習・遊びを通して健全育成を目指した。特に母親の就労支援の一環としても夜間就労の間、在室児童に対するケアを行った。

また、母親の都合や病気の際には、児童の福祉や母親の静養を確保するために宿直室において職員が児童と過ごし、食事や通学準備などの支援を行った。

- ① 自主学習を進めるために平日帰宅後に学習指導を行ったほか、長期休業日には毎朝学習支援をした。
- ② 第2・第4土曜日以外の毎土曜日に児童会行事「みんなの広場」を開催した。
- ③ 夏休みのラジオ体操会は白百合ホームが先導して、白百合ホーム玄関前で行った。
- ④ 町内において引き続き古神明社の境内を遊び場として開放していただいた。
- ⑤ 法人奨学基金制度により、新入学児童に対して入学お祝い金を贈った。

6. 乳幼児の保育

母親の就労時間の多様化に伴い、児童の発達保障に加えて子育て支援としての保育機能強化を図った。

- ① 施設内の保育室で乳幼児の保育を実施した。就労支援を目的として、保育時間は母の就労実態に合わせて早朝・夜間のほか休日や年末年始にも対応した。
- ② 乳幼児の養育相談、身体測定、病児保育、病後児保育と通院の付き添いを実施した。
- ③ 未就学児童については、大きな集団生活の保育所で社会性を身につけるため通園を勧めた。
- ④ 節分・ひな祭り・こどもの日・七夕・遠足・クリスマス・お誕生会その他の行事を行った。

7. 緊急一時保護

4年度の緊急一時保護の受け入れは、4世帯8人、延べ51日間の緊急一時保護を実施した。

8. 健康・衛生管理

- ① 児童福祉施設の設備及び運営に関する基準に基づき、健康診断を2回実施した。(県総合保健事業団・嘱託医)
- ② 感染症対策マニュアルに基づいて対応システムの確認を行った。インフルエンザ対策として玄関に手指消毒装置を設置し、空気清浄機を集会室、空気加湿清浄機を事務室と保育室に設置した。
- ③ 生活習慣病・感染症・食中毒・風邪の予防等、健康・衛生について、広報誌等で理解を図った。
- ④ 施設内外の清掃、寝具の日光消毒、常備薬品の点検補充等を実施した。
- ⑤ 定期的に浴室・遊具等の消毒を実施した。
- ⑥ 大館市保健センターが行う検診の受診を勧めた。
- ⑦ 新型コロナウイルス感染症対策として
 - ・非接触型体温計を活用した。
 - ・施設玄関と保育室玄関へサーマルカメラを導入し、体温測定してから施設への立ち入りを認証している。
 - ・事務室と保育室で、次亜塩素酸の除菌（i p o s h）を行った。
 - ・業者など外部からの来訪者には、体温測定をして会社名、氏名、体温を来訪者名簿に記載してもらい、新型コロナウイルス感染症が発生した際の追跡の記録とした。
- ・アルコールによる手指消毒とマスク着用の励行を行った。

9. 災害防止と安全管理

- ① 年度始め並びに利用者異動の都度、防災委員会の編成替えを行った。
- ② 毎朝、ガス元栓・ストーブの消し忘れ・電気の適正使用等について居室の安全点検を行った。
- ③ 児童福祉施設の設備及び運営に関する基準に基づき、施設内火災・近火・地震などを想定した避難訓練を毎月実施した。
- ④ 交通事故等災害防止について機関紙等を通じて周知するように努めた。
- ⑤ 施設の総合防災対策として町内に防災協力員5名を委嘱し、有事の際の協力を求めた。
- ⑥ 変電設備や電気設備の定期点検（毎月）を実施した。
- ⑦ 消防設備と自動ドアの定期点検（年2回）を実施した。
- ⑧ AEDを設置し、利用者及び職員の緊急事態に備えている。
- ⑨ 防犯対策に係る「静脈入退所管理システム」、「防犯カメラ」を設置し、不審者等への対策を行っている。

10. 環境の整備・施設設備・修繕

- ① 施設内外の整理整頓、冬季間の通路の除雪等を実施した。
- ② 退所による畳の入れ替えや襖・障子の張替えをした。
- ③ 居室の排水管詰まりにより床下排水管取替工事を7件行った。
- ④ 事務室上の居室排水管からの水漏れがあり、事務室天井をはがして修理を行った。
- ⑤ 居室トイレタンク配管腐食等により配水パイプ交換を2件行った。
- ⑥ 井戸水下水道用メーターの交換時期により、メーター交換を行った。

11. 退所母子に対するアフターケア

退所の際には、退所後も相談や訪問などを行うことができる事を伝え、本人の意向を尊重しながらアフターケアを行った。

- ① 退所者の住宅・転職・子育て・家族関係調整などの相談を受け、支援した。
- ② 退所者・在所者・行政職員・町内関係者・法人役員を交えて「第38回白百合のつどい」を開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症対策として開催を見合わせた。
- ③ 退所者に、子育て短期支援事業「トワイライトスティ」の紹介を行った。
- ④ 退所者に年賀状をおくり、安否を確かめ連携を図った。

12. 地域社会との交流・施設機能の開放

- ① 利用者全員が地域の一員として町内会に加入した。
- ② 町内会の会合や行事については新型コロナウイルス感染症対策として開催されなかった。
- ③ 大館市の指定を受けて、子育て短期支援事業（トワイライトスティ）及び一時預かり事業を実施し、積極的に地域の子育てを支援した。

トワイライトスティ事業、一時預かり事業利用実績

事業名	利用実世帯数				利用者数(人)
	一般世帯	母子世帯	父子世帯	計	
トワイライトスティ事業	15	11	0	26	617
一時預かり事業	59	2	0	61	781
合計	74	13	0	87	1,398

13. 施設及び施設機能の開放

母子生活支援施設に対する理解を深めてもらうために

- ① ボランティアグループ、町内会、母子寡婦福祉連合会その他社会福祉団体・社会教育団体の施設利用について門戸を開いている。

- ② 大学の保育実習生 4 名、社会福祉士実習生 1 名を受け入れ指導した。

14. ボランティアの受け入れ他

- ① 例年であれば、秋田県麺類飲食生活衛生同業組合大館支部、大館ロータリークラブ、絵夢人倶楽部、その他の個人ボランティアやグループの奉仕を受けていたところであるが、新型コロナウイルス感染症対策のため、来所しての活動はお断りした。なお、秋田県麺類飲食生活衛生同業組合より、3月18日に利用者へカツカレーの提供があった。
- ② 利用者および施設に対する善意の寄付金や寄付物品を受け施設サービスに資した。なお、及びはNPO支援センターや個人の農家からお米、その他お弁当やケーキなどのご寄付を頂き、利用者へ配布させていただいた。

令和4年度 大館乳児保育園事業報告書

一人一人の「何だろう」を見つめ、「やってみよう」につなぐ～0から2歳児における幼児期の終わりにまでに育ててほしい姿に結びつくであろう多様な援助を目指して～というテーマを保育の重点目標に掲げ取り組んできた。子どものやろうとしている過程を見守り、認めたり励ましたりする援助や、今の子どもの姿から環境を見直し変化させることで、興味や関心が高まり、身近な環境へと自分から関わろうとする姿につながった。年間の研究計画による実施及び保育の振り返りを重ねることによって、子ども一人一人の内面理解につながり、職員間の研究に対する主題や視点が共通理解に向かい、保育を深める姿勢につながったと考える。また園内保育研究会での話し合いの内容をホールやクラス前に掲示したり、毎月のおたよりで保育の重点目標に対する取り組みを知らせたりすることで保護者への当園の保育に対する理解が深まったと言える。

1. 在籍数及びクラス編成

4月1日、48名で事業を開始した。

令和4年月1日現在 (定員60名)

クラス名	年齢	人数(名)	担当保育士(名)
もも組	0歳児	5	5
あか組	0・1歳児	7	4
あお組	1・2歳児	17	3
き組	2歳児	19	4

在籍数 48名・職員数31名(パート職員2名を含む)・嘱託医1名・嘱託歯科医1名

令和5年3月31日現在の在籍児童数：64名 *平均充足率99.1%

2. 保育活動における健康・安全と事故防止対策等

① 園児の健康観察の充実と感染症の予防・対策

- ・ 新型コロナウイルス感染症対策

【園児に対して】

登園時の健康チェック、非接触式電子温度計による体温測定と記録。

定期的な換気。各部屋・ホールの空気清浄機の設置。

0歳児おむつ交換場所に空間除菌のジアイーノ設置。

園児のマスク着用は、3歳未満児にとって窒息や熱中症などのリスクが高まるため着用していない。

0歳児からの手洗いの励行。手指消毒等。

【保護者に対して】

玄関入室時サーマルカメラによる検温。

マスク着用。手指消毒の励行。

家族内・職場・学校等での感染状況の園への周知。県外からの帰省や県外へ移動・宿泊等の園への周知。

感染児が1名でも確認された場合は緊急メールで一斉送信し、注意喚起や症状のある園児の早期病院受診を促した。

【職員に対して】

出勤時の健康チェック、非接触式電子温度計による体温測定と記録。

マスクの着用。県外からの居住者の帰省・県外への出張の届け出。県外への離任地届提出。県外・帰省者との接触時の抗原検査やPCR検査の受検。

抗原検査キットを一人一人に配布し、不安を感じた場合は勤務前に家庭で検査するようにし、園内へのコロナウィルスの持ち込みを阻止した。

感染児が出現した場合は、全園児の健康観察の精度を上げて対処した。

【園内濃厚接触者（又は疑いを含む）が出た場合】

隔離場所の設定。防護服一式～つけ方はずし方のマニュアル。玄関以外の非常口から保護者への渡し方等。抗原検査キットの確保。

【新型コロナ感染による休園】

6月24日～6月27日	4日間休園
7月1日～7月8日	7日間休園
7月26日～7月30日	5日間休園
8月10日～8月14日	5日間休園

- ・ 風邪や感染性胃腸炎、インフルエンザ等の感染症の予防に努め、手洗い・園内や玩具の消毒を徹底し、抵抗力の弱い子どもたちを養護した。
- ・ 嘱託医の指導のもと、保護者に対して予防接種の意義を説明し接種を勧めた。インフルエンザの予防接種を受けるよう促し、職員も接種を受けた。
- ・ 嘔吐をした際の対応キットを各部屋に用意し、毎月嘔吐処理対応訓練を行った。
- ・ 重篤なアレルギー症状に陥った場合を想定して、エピペンの使用訓練や救急車の要請訓練、心肺蘇生法の手順の確認など、毎月緊急時対応訓練を行った。
- ・ 感染症の状況

手足口病～R4.8.30～9.14 31名の罹患。保健所・嘱託医に届け出をし、指導を仰ぐ。園内消毒。保護者への注意喚起。

RS ウィルス感染症～R4.12.12～12.16 10名の罹患。保健所・嘱託医に届け出をし、指導を仰ぐ。園内消毒。保護者への注意喚起。

胃腸炎～ R5.2.2～2.13 23名の罹患。保健所・嘱託医に届け出し、指導を仰ぐ。
職員による全室消毒。保護者への注意喚起。

・怪我について

十分気をつけて保育していたが、日常的な小さな怪我はあった。
事故報告書により原因を取り除いたほか、全職員に情報を提供して共通理解を図った。保護者への怪我をした経緯の説明と謝罪をした。

② 子どもへの虐待防止と保護者支援について

- ・ 毎月「気づきシート（虐待等チェックリスト）」で検証して、虐待の把握と対応に努め、支援の質の向上を図った。
- ・ 保護者の精神面・体調面による子育て不安に対して受容的援助をした。
- ・ 全国で起きた保育士等の「子どもに対する不適切な対応」について、職員間で検証し、倫理観の共有を図った。

③ 安全で快適な保育環境の提供

- ・ 園庭の芝生の手入れと0歳児側の芝生の拡張をし、伸び伸び遊べるようにした。
- ・ 各クラスの砂場遊びの充実と戸外での体を動かす遊び等のため園庭を整備した。
- ・ 畑を整備し、子どもたちと野菜の栽培や、稲作り、花壇に花の苗植えを行った。各クラスで子どもの目につくところに植え、野菜や花の生長に触れ合うことができるようにした。収穫後はクッキングをして食育活動をした。
- ・ ガスヒートポンプ・エアコンの更新工事により、快適な環境につながった。
- ・ 県の補助金を利用し各クラス他に、高性能空気清浄機を設置し、環境を整えた。
- ・ 生命保険協会からの寄付によりホールに高性能空気清浄機を設置し、環境を整えた。
- ・ 消防の指導により、パッケージ型消火設備を3ヶ所設置した。
- ・ 電気設備検査により、ルーフヒーターの電気設備不良が発見され、改修した。
- ・ 季節変化による危険個所への対応
ベランダや園庭に遮光ネットを取り付け、熱中症・紫外線対策をした。
積雪期はベランダ部分に仮設屋根を取り付け、避難路の確保に努めた。
業者による除雪・排雪をし、安全な環境を整えた。
- ・ 有資格者による園庭遊具の安全点検を行い、修理した。

④ 園評価の実施と職員の専門性の醸成

- ・ 保護者アンケートを行い、必要な改善を図るとともに意見に対する園の考え方や反映について保護者に丁寧に伝えた。
- ・ 保護者や地域関係者による「保育園評価委員会」によって、保育の視察等を

通じて意見を頂き、運営の向上を目指した。評価はA～Eの5段階のうち「B」とされた。

- ・気づきシート会議等を通じて、子どもや保護者の援助の方法を考えあつた。
- ・育ちの記録の共通理解とストレングス視点に基づく援助を行った。

⑤ 行事、地域活動について

- ・ 行事・地域活動には保護者の協力を得て実施した。行事は参加者の人数の制限・広い場所の確保・時間短縮・換気を心がけ実施した。新型コロナ感染拡大により、行事の延期や中止を余儀なくされた。
- ・ 泉町地域ふくしセンターさんとの交流は新型コロナ感染拡大により中止となり、おたよりでの連携のみとなった。
- ・ 小学生による子どもハローワークは新型コロナ感染拡大により中止となった。中学生の職場体験学習や高校生のインターンシップを受け入れ、実施した。

⑥ 他機関との連携

- ・ 「気になる子ども」に対する支援として、市児童相談係やひまわり園との定期的な情報交換と指導の助言などの連携を図った。
- ・ 養育困難な家庭に対して、北児童相談所と市児童相談係との連携を図った。

⑦ 保育人材確保策

- ・ 保育士不足を補うため、シルバー人材センターから保育士の派遣を受けて保育の質を担保した。

3. 他機関による研修

秋田県教育委員会をはじめ、各行政機関や関係団体主催の研修会は、コロナ禍により、県外はもちろん秋田市以遠への職員の派遣を中止し、北秋田市まで状況をみながら派遣した。しかしリモートでの研修がほとんどであった。リモート開催により複数の職員が研修を受ける機会につながった。研修結果は復命書の回覧を主体に、全職員が共通理解するように努めた。

4. 避難訓練

4月のオリエンテーションによる役割確認に始まり、近火・園内火災・不審者対応・地震・竜巻・ミサイル対応等の、「災害形態」や早朝・遅番・午睡時・夕方・土曜日・休日等の「職員体制」や「子どもの生活の実態・季節の変化」を想定して毎月1回以上（年15回）実施した。

うち1回は消防署員立会いの指導だったがコロナ禍のため中止となった。

保護者が登録しているメールアドレスに、緊急メールの同時配信訓練を行った。その際保

護者への引き渡し訓練も実施した。毎月、消火器の使用訓練を行った。

5. 休日保育の利用状況 (名)

月	月の日数	利用者数		平均	月	月の日数	利用者数		平均
		当園	他園				当園	他園	
4	5	12	7	3.8	10	6	21	15	6
5	8	23	24	5.9	11	6	33	6	6.5
6	3	6	9	5	12	4	14	5	4.8
7	4	4	16	5	1	5	24	9	6.6
8	3	4	9	4.3	2	6	24	7	5.2
9	5	19	9	5.6	3	5	20	5	5.0
開所日数・利用者の合計(名)及び平均(名)						60	204	121	5.4

6. 延長保育の利用状況

AM7:00~7:30の利用状況 (名)

月	月の日数	利用者数	平均	月	月の日数	利用者数	平均	
4	25	25	1.0	10	25	30	1.2	
5	23	28	1.2	11	24	32	1.3	
6	26	22	0.8	12	25	24	1.0	
7	25	14	0.6	1	23	32	1.4	
8	26	26	1.0	2	22	29	1.3	
9	24	34	1.4	3	26	26	1.0	
開所日数・利用者の合計(名)及び平均(名)						294	322	1.1

PM6:30~7:00の利用状況 (名)

月	月の日数	利用者数	平均	月	月の日数	利用者数	平均	
4	25	33	1.3	10	25	16	0.6	
5	23	35	1.5	11	24	30	1.3	
6	26	37	1.4	12	25	26	1.0	
7	25	19	0.8	1	23	30	1.3	
8	26	29	1.1	2	22	22	1.0	
9	24	45	1.7	3	26	12	0.5	
開所日数・利用者の合計(名)及び平均(名)						294	334	1.1

7. 安全への配慮

- ・毎月1～2回、リスクマネジメント会議を開催し、睡眠時・食事・散歩・水遊び・積雪時などの危険予知訓練やヒヤリハット検証・事故報告書による事故分析をし、考えられる防止策を話し合い、クラス単位での行動目標を決め、事故防止に備えた。今年度は特に全国で起きた保育園等に関係する事故・事件に関しての事案をその都度取り上げ、当園に当てはめての防止策などを話し合い、職員の行動目標を決め実施した。
- ・設備の更新や備品購入の都度、安全点検表の加筆修正をした。
- ・安全点検表を用いて、毎月初めを「安全点検日」としてクラスの輪番制による安全点検を実施し、要改善箇所は速やかに改善し、事故防止に努めた。
- ・専門業者による毎月1回調理室の害虫駆除の他、園内ねずみ駆除のため11月から3月までの点検を行った。
- ・専門業者により年1回「食器洗浄機」「食器消毒保管庫」を点検した。
- ・専門業者により、年2回「自動火災報知機・消防設備」を点検し、消防署に報告した。不良箇所はその都度適切に修理した。
- ・専門業者により、年2回自動ドアを点検し保守管理に努めた。
- ・専門業者により、屋外固定遊具等の点検をした。

8. 保健衛生管理

(1) 園児について

- ・年2回嘱託医の協力のもとで全園児健康診断を行い、0歳児は1歳になるまで毎月0歳児健診を行った。保護者に結果を配布した。
- ・毎月1回、身体測定（身長・体重）を行い、個人の連絡帳に記入し保護者に知らせた。
- ・毎月1回給食会議を開催し、給食担当者を交えて、一人一人の子どものカウプ指数をもとに食事と健康、食育について、食物アレルギー児の要配慮事項について話し合いクラスとの連携を図った。
- ・年1回、嘱託歯科医の協力のもとで全園児の歯科健診を受け、保護者に結果を配布した。
- ・適時に感染症情報等を保護者に伝えた。

(2) 職員について

- ・毎月調理担当者・調乳担当者の検便を実施した。
- ・毎月調理担当者のノロウイルス検査を行った。
- ・年1回、全職員の検便を実施した。
- ・年1回、職員の健康診断(生活習慣病予防検診を含む)を行った。「要精検」との医師の診断があった場合は病院受診を勧め、該当者は受診した。
- ・年1回、全職員がインフルエンザ予防接種を受けた。

9. 客観的評価を踏まえた施設運営の検証(再掲)

- ・職員による自己評価・保護者アンケートを実施し、さらに園評価委員会を組織して意見を伺い、運営向上に向けて取り組んだ。保護者アンケートへ寄せられた意見や要望に対して、園としての対応結果を全保護者に配布し周知した。

職員による自己評価・園評価委員の意見・保護者アンケートからの全ての結果を総括し、改善に向けた方策を令和5年2月「大館乳児保育園自己評価の結果報告」として保護者に配布し開かれた運営に理解を求めた。

10. 保護者との連携と業務改善

- ・苦情解決制度等を活用し、保護者からの意見を集約し、園としての考え方と改善結果を保護者に周知するシステムを確立している。

保護者アンケート等で寄せられた苦情や意見については真摯に対応して改善し、職員の共通理解のもとで保護者にも公開していく方針である。

令和4年度釈迦内保育園事業報告書

「いきいき わくわく 意欲あふれる子ども」を、保育目標に掲げ、保育活動を展開することができました。園内研究テーマは「心うごかし思いきり遊ぶ子ども」～として研究を進めてきました。興味や関心のあるものに向かっていく姿、繰り返し楽しむ姿、諦めずに何度も挑戦する姿、共通の目的に向かっていく姿を目指しました。そのために子どもの表情、仕草、つぶやきなどから子どもの思いや学び、大切な経験を読みとり降り返りシートを作成。自分自身の保育を振り返り保育者間で子どもの育ちを共有する、援助と環境の構成の改善を図り、その後の子どもの変容を追うことが昨年度の課題の改善につながりました。

1. 在籍数及びクラス編成

4月1日、66名で事業を開始した。

令和4年4月1日現在 (定員75名)

クラス名	年 齢	人 数	担当保育士
もも組0	0歳児	3名	1名
もも組1	1歳児	8名	2名
ちゅうりっぷ組	2歳児	10名	3名
たんぽぽ組	3歳児	14名	1名
さくら組	4歳児	15名	1名
ゆり組	5歳児	16名	2名
在籍数66名	職員数21名・嘱託医2名		

2. 保育活動における健康・安全と事故防止対策等

① 園児の健康観察の充実と感染症の感染予防・対策

- ・新型コロナウイルス感染症対応。
- ・手洗い・マスクの着用・手指消毒・換気等基本的な感染対策を徹底した。
- ・体調不良があるときは登園、出勤をしない（登園、出勤前の健康チェック）。
- ・職員・来訪者の検温、消毒、体調の確認。
- ・県外、市外との往来はできるだけ避けた。
- ・風邪や感染性胃腸炎、インフルエンザの予防に努め、手洗い・うがいの励行。
- ・手の触れる場所の消毒を徹底し、抵抗力の弱い子ども達を養護した。
- ・嘱託医、子ども課の指導のもと、保護者に対してインフルエンザ以外の予防接種

の意義を説明し、計画的な接種をお願いした。

- ・嘔吐をした際の対応キットを各部屋に用意し、対応訓練を行った。
- ・アレルギー症状に陥った場合を想定して、エピペンの使用や救急車の要請訓練を行った。
- ・感染症について
- ・6月15日、胃腸炎発生。6月21日集団発生となる。27日より罹患者全員登園。
- ・11月11日、0歳児1名が急性胃腸炎に罹患。0歳児1名ノロウイルスその後0, 1, 2歳で疑いも含めて6名が罹患。集団発生にはならず11月19日で報告終了。

②怪我について 大館市の事故報告なし。

- ・十分気をつけて保育していたが、日常的な小さな怪我はあった。
- ・毎月、ヒヤリハット報告を提出させ、事故の未然防止に努めた。
- ・事故の都度、事故報告書により発生の場所・時間帯・曜日・職員の位置・原因・保護者への対応などの分析を加え、考えられる防止策を講じた。保護者には丁寧に説明しお詫びをした。毎月、事故防止会議を行い全職員で共通理解した。

③子どもへの虐待について

- ・子どもへの虐待が疑われた場合は保護者に説明を求め、必要に応じて関係機関（児童相談所児童福祉司、児童家庭相談員）と連携して対応することになっている。

④安全で快適な保育環境の提供

- ・アメシロ駆除小学校と一緒に7月9日 9月3日に行う。
- ・生垣剪定作業 7月26日。
- ・園舎屋根の雪おろし作業。
- ・道路側の桜の木伐採作業（NTT/市子ども課対応）。
- ・8月4日・8月31日停電による給水ポンプ異常。制御盤の故障で11月9日に部品が入り修理完了（市子ども課対応）。
- ・ガスヒートポンプの部品交換 5年1月17日。
- ・保育用備品の落下防止措置及び転倒防止措置を施し、安全点検項目に加えた。
- ・季節も変化による危険個所への対応。
- ・凍結や積雪など、自然の営みに対して安全確保面での対応を実施した。夏にはベランダや園庭に遮光ネットを取り付け、熱中症、紫外線対策をした。

⑤充実した保育環境の提供

- ・園庭整備。
- ・発達に応じた手作り玩具の活用による遊び。

⑥園評価の実施と職員の専門性の醸成

- ・保護者アンケートや自己評価を行い、必要な改善を図るとともに意見に対す

る、園の考え方や反映について保護者に丁寧に伝えた。

- ・保護者や地域関係者の方々に園の外部評価をして頂いた。ご意見を基に、子ども課補佐、保育アドバイザーから保育指導を頂きながら、保育の質の向上を目指した。
- ・特別支援が必要な園児の全職員の共通理解と比内支援専門監による指導・助言を頂く。

⑦ 行事、地域活動について行事

- ・地域活動はコロナ禍の中、規模の縮小や工夫しながらの活動となり、職員と園児だけの活動が多くなった。年長児はできるだけ保護者参加の行事を工夫しながら行った。保護者参加の行事が少なくなり代替行事を企画し楽しめるように工夫し、行事等を DVD にして保護者に貸し出しを行い、育ちの共有に努めた。
- ・保護者や主任児童委員・地域の方々の理解と協力を得ながらの行事となった。
- ・市教委の子どもハローワーク事業で、保育体験希望の小中学生を受け入れた。

3. 避難訓練実施記録

月 日	想 定	実 施 内 容	反 省
4月8日	10:20 保育中	<ul style="list-style-type: none"> ・非常の合図を知る。 ・非常の合図や避難棋を知る。 ・避難用具に慣れる。 ・避難訓練の意味を知る。 ・避難時の約束を知る。 ・非常ベルを聞かせ、どのような時にこのベルが鳴るのか、このベルが鳴ったら何をしなければならぬのか(静かにする、放送を聞く、保育士等の側に集まる、保育士等の話を聞く)を知らせた。 	<p>新体制での訓練と言うことで、役割分担がしっかり行われていることが重点となったが、マニュアルの確認したことで、各クラスが意識しながら避難行動ができた。今回は0・1歳児の人数が少なかったことで、応援態勢をとることがなかったが、応援の人数が最低限の場面も想定して避難訓練を行っていくことを確認した。</p>
4月28日	10:00 保育中 火災・地震 各部屋 ↓ 未・各部屋 以・ホール	<ul style="list-style-type: none"> ・避難の約束を知る。 「あ、おはしも」(慌てない、押さない、走らない、しゃべらない、もどらない) ・指示に従い、地震に対する避難の仕方がわかる。 	<p>保育中の訓練であったが、予告をした上で、怖がることなく声のトーンに気を付け訓練を行った。進級児は継続して行っている訓練に落ち着いて対応し、新入園児も泣くことなく避難できた。なぜ避難するのか、命を守るために何をすればいいのか避難後に全員で共通理解を図った。</p>

			<p>次回へ生かしていけるようにクラスごと話し合えるような場を設けることを伝えた。</p> <p>未満児クラスは、日頃から遊びの中で、体を小さくする動き(ダンゴムシなど)を取り入れていき、子どもの負担にならないようにしていく。</p>
5月13日	<p>17:30 保育中 火災 (遠火) ↓ 各活動場所</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・身近にいる保育士等の指示に従って緊急避難する。 ・非常の合図で近くの保育士等の側に集まる。 ・おんぶや避難車で避難する。 ・内ズックのまま、ハンカチや衣服で口と鼻を抑え低い姿勢で避難する。 ・遊具を持たずに「あ、おはしも」で避難する。 	<p>子どもの人数が少なかったことから未満児は子どもの避難と一緒に荷物を持ち以上児は担任以外の保育士等の指示を聞いて避難することができた。普段から降園した子どもを確認していることですぐ人数の把握もできていた。人数が多い場合未満児はズック入れを持っていくことで、全員分まとめて移動できる状態にしてある。職員の人数が少なくても、まずは子どもの避難を第一に考え連携を取りながら行う必要がある。</p> <p>訓練前に予告したことで、不安に泣く落ち着いて取り組むことができた。</p> <p>放送時、園内にいる職員と園外にいた職員が放送を聞いて各クラスの手伝いに対応してくれたおかげでスムーズに避難できた。</p> <p>ホールに避難した後も雨合羽を嫌がることなく着用していた。</p>
5月24日	<p>10:00 風水害 保育室 ↓ ホール 旧園舎跡地</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・非常の合図で誘導に従う。 ・合図を聞いて身近にいる保育士等の指示に従う。 ・素早く身支度をする。 ・風水害について知る。 	<p>放送時の訓練のため、ゆっくり分かりやすく放送するよう心がけた。</p> <p>竜巻の想定で行ったが、「ズックを履いたまま避難したら良かった」や「仕切りを上手く利用して窓ガ</p>
6月2日	<p>10:00 保育中 竜巻 ↓ ホールへ移動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士等の誘導に従う。 ・合図を聞いて、身近にいる保育士等の指示に従い機敏に行動する。 ・竜巻の恐ろしさを知らせ安全な場所に避難する。 	<p>放送時の訓練のため、ゆっくり分かりやすく放送するよう心がけた。</p> <p>竜巻の想定で行ったが、「ズックを履いたまま避難したら良かった」や「仕切りを上手く利用して窓ガ</p>

6月27日	15:00 火災 (遠火) 保育室 ↓ ホール	<ul style="list-style-type: none"> ・非常の合図を聞いて保育士等の誘導に従う。 ・目覚め直後、どこにいても合図を聞き、身近にいる保育士等の指示に従う。 	<p>ラスの飛散防止に使えばどうか」など反省が出たので、次回に活かしていけるようクラスごとで話し合える場を設けることを伝えた。</p> <p>目覚め直後ベルということで、日中の訓練とは異なった子どもの姿や行動も見られたようであった。職員間で役割を決めたり、子どもが安心できることを大切にした対応を心がけたりすることでスムーズに避難できていた。なかなか目覚めることのできない子の対応についても、布団を利用するなど職員間で話し合った。非常時に起こりうる様々な姿や状況を想定した動きを日頃から職員間で考えていきたい。</p>
7月20日	10:45 保育中 火災 (遠火) 各クラス遊んでいる場所 ↓ 玄関前 (ポーチ)	<ul style="list-style-type: none"> ・避難の合図に慣れる。 ・非常の合図や避難場所をよく聞き手順よく避難する。 	<p>室内で自由遊びの中のクラス、戸外から室内へ戻り、水着を着がえているクラスと、それぞれ活動中の訓練だったが、避難の大変なクラスを手の空いた職員が手伝い、子ども達を安全に避難誘導することができていた。</p> <p>「靴を履いて避難」という放送だったため玄関が混雑したようだ。状況に応じて内ズックのまま避難するなど、各自の判断で、慌てずに誘導できるようにしていく。</p>

<p>8月17日</p>	<p>10:00 保育中 総合訓練 地震（強震） ↓ 火災 （給食室） ↓ 戸外 各保育室 ↓ 第1コース （釈迦内小 校庭）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・非常の合図を聞いて保育士等の指示に従って避難する。 ・室内外、それぞれの場所に応じた適切な避難方法を理解する。 ・おんぶや避難車、誘導ロープ等で避難する。 ・地震から火災の避難行動を知る。 ・消火活動や視聴覚教材を見たり、消防署員の話の聞いたりする。 	<p>今回は強震からの火災だったため、窓やドアの開閉の順番や各クラスからの避難経路の確認などを瞬時に判断し、迅速に誘導、避難することを意識することができた。子どもたちは放送を良く聞き、瞬時に保育士等の側によりスムーズに避難場所まで移動し、とても落ち着いていた。</p> <p>初めて通報訓練を行ったが通報者自身が慌てずに落ち着いて正しい情報を伝えるために、日頃から住所や電話番号を念頭に置き園全体のその日の園児の状態等を正しく伝えるため、報連相を忘れずに行っていく大切さを実感した。</p>
<p>9月13日</p>	<p>11:45 昼食時 地震 （弱震） ↓ 火災 （遠火）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・非常の合図を聞いて保育士等の誘導に従う。 ・保育士等の指示に従って敏速かつ安全に避難する。 ・食事中であっても、慌てないで指示に従う。 	<p>給食中、給食後、各クラスがそれぞれの状況での避難となった。各クラスの保育士等から離れていても放送やベルの音ですぐ保育士等の側に集まることができていたようであった。食事時のクラスは、歯ブラシ、橋などを持っていることにも意識した声掛けを行っていた。</p> <p>様々な状況がある中、臨機応変に対応できていた。</p> <p>避難中もふざけたり、おしゃべりしたりする子は少なく、日ごろの避難訓練に対する真剣さが感じられた。</p>

10月7日	10:00 保育中 竜巻 ↓ 室内 各部屋 ↓ ホール	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士等の誘導に従う。 ・合図を聞いて、身近にいる保育士等の指示に従い機敏に行動する。 ・竜巻の恐ろしさを知らせ安全な場所に避難する。 	竜巻発生時に園庭に出ているクラスがほとんどの状態での訓練となった。ベルの音だけでは反応の遅い子もいたが、放送の指示がはっきり2回聞こえたことで、子ども達も保育士等の呼びかけに反応して集まることができた。室内に入る指示が出てから他の保育士等がすぐに園庭から一番近いホールの入り口のドアのかぎを開けたことで混雑することなくスムーズに避難することができたと感じたので、各クラスの状況の把握で避難の対策が図れると思った。
11月4日	8:00 職員の手薄な時間帯 火災(遠火) 各保育室 ↓ ホール	<ul style="list-style-type: none"> ・非常時の合図を聞いて保育士等の誘導に従う。 ・職員の少ない時間帯での避難の仕方を知る。 ・担任以外の保育士等の誘導に従い非難する。 ・非常の合図で保育士等の側に集まる。 ・おんぶや避難車で非難する。 	職員が手薄な時間帯ではあったがベルや放送に泣き出す子もいなかった。担任以外の保育士等の側に集まることもスムーズにできていた。丁度登園した子もいたが、訓練中であることを掲示していたので落ち着いてホールに来ることができた。 登園時の人数はきちんと把握できているので避難するときも混雑しなかった。 遠火ということで、落ち着いて行動するよう保育士等の誘導や声掛けがありとても良かった。
12月5日	10:00 自由な活動時間 火災(近火) ↓ 保育室 ↓		ジャンパーを着用し、保育士等の誘導に従い落ち着いて避難する様子が見られた。積雪もなく、避難場所までスムーズに避難できていたが、天気や積雪の状態で凍っていたり雪が積もっていたりすると、滑って転倒の恐れがあるため、外の様子に合わせて誘導の仕方に気

	ポーチ脇の 駐車場		を付けていきたい。また、どうしても子どもの避難が優先になってしまうが、保育士等も防寒具を着用し、子どもの安全を守っていきたい。
1月20日	15:15 午睡後 火災（遠火） 各つけ室い ↓ ホール	<ul style="list-style-type: none"> ・非常時の合図を聞いて保育士等の誘導に従う。 ・目覚め直後、どこにいても合図を聞き、身近にいる保育士等の指示に従う。 ・担任以外の保育士等の誘導にも従う。 ・泣かずに着衣の介助をしてもらう。 ・泣かずに身支度をし、援助してもらい避難する。 	<p>今回はおやつの時間であったが、テーブルにおやつが並んでいて身支度を整える場所が狭くなり準備等に時間がかかってしまう様子もあった。</p> <p>一人担任のクラスや身支度に時間がかかっているクラスには、避難が終わったクラスの保育士等が速やかに手伝いに入り防寒具の移動等を行うことができた。遠火だったため、ホールに避難してから防寒具を着るクラスも多かったが、地震などで防寒具を着てから避難するまでにどの程度時間を要するのか訓練していくことも必要だと感じた。</p>
2月10日	10:30 保育中 (室内・室外) 地震 (強震) 保育室 ↓ 玄関前駐車場	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士等の誘導に従う。 ・それぞれの場所に応じた適切な避難方法を知る。 ・担任以外の保育士等の誘導にも従う。 ・室内外、それぞれの場所に応じて避難する。 	<p>戸外では隠れる机や場所がなかったり、木や屋根からの落雪に気を付けたりしながらの避難訓練であった。各クラス、担任の落ち着いた判断、声掛けで雪がある中、安全に避難することができた。残留児の確認をホール側ともも側から行うことでスムーズであった。0歳児は大きいソリで避難ということであったが、声を掛け合い、安全に配慮して移動することができていた。春からの日々の訓練で子ども達は話を聴く姿勢や身を守るダンゴムシポーズ、指示に従って避難するということが身についてきて</p>

			いる。職員間の連携もスムーズに声を掛け合い行うことができた。0歳災害時への認識を高めて行動に移せるようにしていきたい。
3月14日	15:45 自由な活動時 ～降園 引き渡し訓練 地震 (強震) ↓ 停電 保育室 ↓ ホール	<ul style="list-style-type: none"> ・非常の合図を聞いて保育士等の指示に従って避難する。 ・地震(強震)から停電時の避難の方法を知る。 ・非常時の合図で保育士等の側に集まる。 ・保育士の誘導に従って避難する。 	<p>一年間の訓練の成果がとても良く出ていた。午睡後の慌ただしい時間であるにもかかわらず保育士等の落ち着いた対応、声掛けにより全体的にとってもスムーズに避難できていた。</p> <p>引き渡し訓練も同時に行ったが、事前に役割分担や、流れを明確にしたことで、役割に沿って各自がしっかり責任を持って取り組むことができたので良かった。</p> <p>迎えを待つ間の連携を高めるためスムーズに降園できるように、玄関前の引き渡し簿の記入場所(机の位置)を入り口側に設置することで、保護者がわざわざ靴を脱ぐ手間が省け、引き渡しがとてもスムーズに行うことができた。また、放送(デッキ)を使うことでホールへの呼び出しもとても良かったと思う。</p>

4. 安全への配慮

- ・安全点検表を用いて、毎週第2、第4金曜日を「安全点検日」として担当者による安全点検を実施し、要改善箇所は速やかに改善して事故防止に努めた。また、戸外点検を毎週月曜日に行い安全管理に努めた。冬期間以外は2週間ごとに、砂場消毒を実施し、発電機の点検始動も行った。
した。
- ・専門業者により毎月1回「ねずみ・害虫防除」を行った。
- ・ヒヤリハットによる事故の検証・対応・対策・再評価をすることで事故防止に努めた。危機意識を高めるためにも、月1回事故防止対応研修を行った。
- ・専門業者により、年2回「自動火災報知機・消防設備」点検を行い、消防署に報告

した。不良箇所はその都度適切に修理した。

- ・ 専門業者により、屋外固定遊具等の点検をした。

5. 保健衛生管理について

(1) 園児について

- ・ 年2回梅内嘱託医の協力のもとで全園児の健康診断を受けた。
- ・ 毎月1回、身体測定（身長・体重）を行った。
- ・ 年1回、古田嘱託歯科医の協力のもとで全園児の歯科健診を行った。
- ・ 感染症情報、新型コロナウイルス感染情報等を保護者に伝えた。

(2) 職員について

- ・ 毎月調理担当者・調乳担当者の検便を実施した。
- ・ 年3回、全職員の検便を実施した。
- ・ 年1回、職員の健康診断を行った。
- ・ 年1回、生活習慣病予防検診（希望者のみ）を受けた。
- ・ 年1回、全職員がインフルエンザ予防接種を受けた。
- ・ 年2～3回、全職員がコロナウイルス予防接種を受けた。

6. 施設運営の検証と改善

- ・ 自己評価と保護者アンケートを実施し、その結果を踏まえて更なる運営向上に向けて取り組んだ。保護者アンケートの内容と対応結果を保護者に周知し、開かれた運営に理解を求めた。

令和4年度十二所保育園事業報告書

1. 児童の入所状況（認可定員 50 名 利用定員 40 名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0歳	2	2	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3
1歳	3	3	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3
2歳	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
3歳	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
4歳	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
5歳	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
合計	33	33	32	32	34	34	34	34	34	34	34	34

うち 障害児保育 3名 定員充足率 83.8 %

2. 職員の配置状況

園長（1） 主任保育士（1） 保育士（8） パート保育士（1） 保育補助（1）
事務兼保育補助（1） 調理員（2） 代替調理員（1） 嘱託医（1） 嘱託歯科医（1）

3. 保育環境の整備

- ① ガス台交換
- ② FF集中制御盤修理
- ③ 雪害による外壁破損

4. 職員 について

職員の変動はなし。

5. 新型コロナウイルス感染症への対応

- (1) 手洗い・マスクの着用を含む咳エチケット
- (2) 園内・手指消毒・定期的な換気・密にならない。玄関での受け渡し。
- (3) 体調不良のときは、登園・出勤をしない。（登園、出勤前の健康チェック）
- (4) 職員・来訪者の検温、消毒、体調の確認
- (5) 各クラス空気清浄機、加湿器設置、非接触式電子体温計で対応

6. その他

- (1) 感染症の集団発生なし。
- (2) 大館市への事故報告について
 - ・ 7月7日 職員の右足小指のひび
 - ・ 3月、5歳児の右腕の打撲、右眼球打撲の2件の事故があった。いずれも1回の受

診で終わり、大きな事故にはならなかった。

(3) 大雨で断水になり、8月15日 休園

主な取り組み

① 職員のスキルアップ

- ・保育目標・重点目標を意識した保育が展開できるように、園内研究や園内研修に取り組んできた。特に園内研究では、ファシリテーターの育成も含め、保育の展開や環境作り、関わり等を研究し、さらに、教職員実践発表会で研究成果を発表し、発表の職員はもちろん、園内全体で取り組んだことで職員の資質向上につながった。
- ・園内研究での事故防止研修では、ヒヤリハットを増やすことを意識して、改善後の対応なども話し合った。
- ・個別の支援が必要な園児については、比内支援学校の専門監、療育センターの二階堂専門監による、発達支援の指導助言を受けた。

② 業務組織の改善

- ・以上児会議、未満児会議、職員会議を連動させ、分掌のリーダーとしても積極的に取り組んだ。

③ 園内外の研修

- ・キャリアアップ研修については、オンライン研修がほとんどだったが、全員受講できた。

④ 交流活動

- ・小学校1年生との交流は、計画通りに実施できた。教職員にも何度か交代で足を運んでいただき、情報提供ができた。
- ・地域の施設訪問は、コロナ禍で実施できなかったが、園児手づくりのプレゼントを4施設に届け喜ばれた。

⑤ 園評価の実施

- ・保護者アンケートや自己評価を行い、園として必要な改善を図ると共に意見に対する園の考え方や改善点について保護者に丁寧に伝えた。
- ・保護者や地域関係者による「外部評価」によって、保育の視察等を通して、ご意見を頂き、運営の向上を目指した。

令和4年度東館保育園事業報告書

1. 児童の入所状況（認可定員60名 利用定員30名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0歳	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	5	5
1歳	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
2歳	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
3歳	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
4歳	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
5歳	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
合計	27	27	27	27	27	27	27	27	27	28	30	30

うち 障害児1名 定員充足率91.9%

2. 職員の配置状況

園長（1） 主任保育士（1） 保育士（9） 保育補助員（1） 調理員（3）
事務員（1） 清掃員（1） 嘱託医（1） 嘱託歯科医（1）

3. 保育環境の整備等

- （1） 砂場砂補充（保育環境整備のため）
- （2） 園庭ランドポール2本撤去（安全確保のため）
- （3） ほふく室畳表替え（保育環境整備のため）
- （4） ホール・玄関等電球のLED化（経費節減のため）
- （5） 夏の大雨による自然災害のため駐車場に碎石埋立て（駐車場整備のため）
- （6） 保護者駐車場の雪の排雪（駐車場整備のため）

4. 職員について

- （1） 保育士1名 令和4年1月20日より育児休暇中、令和5年4月1日から復帰予定

5. 新型コロナウイルス感染症への対応

- （1） 手洗い・マスクの着用を含む咳エチケット
- （2） 手指消毒・定期的な換気・人と人との距離を取り、食事の時は向かい合わず座る
- （3） 体調不良があるときは登園、出勤をしない（登園、出勤前の健康チェック）
- （4） 職員・来訪者の検温、消毒、体調の確認
- （5） 各クラス空気清浄機、加湿器、非接触式電子温度計の設置

6. その他

- (1) 感染症～コロナウィルス感染症のため5月（3日間）と8月（5日間）休園とする
- (2) 大館市への事故報告なし

7. 主な取り組み

(1) 職員のスキルアップ

① 園内研究

- ・「とことんやってみよう～一人一人の好奇心をくすぐる環境とは～」をテーマに研究を進め、園児の主体性を育む保育のあり方について語り合い、保育の実践に臨んだ。
 - ・「このとき」と題し、子どもの育ちの見られる写真に説明文を添えて保護者に配布し成長の喜びを共有するとともに、保育者の子どもの姿の見取り力の向上を図った。
- また、玄関先に毎日の保育記録を写真付きで掲示し、保護者に大変好評を得ている。

② 業務組織の見直しと実践

- ・未満児、以上児のグループ会議や各分掌のリーダー会を開き、スムーズな職員会議の進行と共通理解を図った。

③ 園内外の研修

- ・保育者のキャリアアップのため、該当研究に参加し、研修報告（自園での演習も含む）を行い、研修内容の共有を進めた。また、業者委託のキャリアアップオンライン研修もそれぞれ1領域を全員受講した。

④ 交流活動

- ・東館小学校（同校放課後クラブ含む）、同地域の立昌寺、郵便局などと年間の様々な行事を通して交流を行った。
- ・東館小学校とは、職員による授業・保育参観で幼保小連携が円滑に行われ、次年度から取り組む「幼保小架け橋プログラム」の土台は築けている。
- ・地域を愛する・愛される園を目指し、地域探検として園外へ出かけて様々な自然や人、ものなどに積極的に関わってきた。また、秋田県主催のエコクラブに所属し、ペットボトルキャップを集め、小学校に届ける活動も行っている。

令和4年度西館保育園事業報告書

1 児童の入所状況（認可定員90名 利用定員50名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0歳	1	1	1	1	1	2	3	3	4	6	6	6
1歳	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
2歳	11	11	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
3歳	10	10	10	10	11	11	11	11	11	11	11	11
4歳	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
5歳	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
合計	46	46	45	45	46	47	48	48	49	51	51	51

うち 障害児保育 3名 定員充足率95.5%

2 職員の配置状況

園長（1） 主任保育士（1） 保育士（9） 保育補助（6）
 調理員（2） 事務員（1） 清掃員（1） 嘱託内科医（1） 嘱託歯科医（1）
 ※調理代替 シルバー委託

3 保育環境の整備

- (1) 保護者駐車場を拡充する（安全確保・環境整備のため）
- (2) 園庭フェンス側の枝撤去（安全確保・環境整備のため）
- (3) 各部屋引き戸足回り修理（安全確保のため）

4 職員について

- (1) 保育補助員2名出向 9月～釈迦内保育園 2月～乳児保育園
- (2) 保育補助育休明け復帰1名 2月～

5 新型コロナウイルス感染症への対応

- (1) 手洗い、マスク着用、手指消毒、換気など基本的な防止策を行っている
- (2) 園児、職員は毎日検温し、訪問者も検温・手指消毒を行っている
- (3) 保護者・職員とも体調に異を感じたらすぐ抗体検査やPCR検査を行うなど感染の拡大にならないように注意喚起を適宜行った
- (4) 足踏み式手指消毒器を設置する
- (5) 行事等の内容の見直しなど工夫して実施した

6 その他

- ・7月未満児 11月以上児
 とともにコロナ感染（クラスター）により1週間学級閉鎖を行った

※ 特徴的な経営

① 職員のスキルアップ

- ・保育の振り返りの意義を踏まえ、改めて保育士としての姿勢について考えられるように園内研修や園内研究を展開した。
- ・研修機会としての勉強会を感恩講主催として大館北秋田へ案内し実施した。

② 機能する業務組織の改善

- ・未満児以上児のグループ会議・リーダー会・職員会議を連動させ、様々な共有を進めた。

③ 園内外の研修

- ・キャリアアップ研修については、該当研修には参加し、秋の委託研修がオンラインとなり選択した1領域を全員受講した。

④ 「子どもが主役」の保育実践

- ・指導案作成、保育内容等について保育者にとってではなく子どもにとってどうかという姿勢が定着した。また、職員会議や園内研修の中で講話を行った。

⑤ 交流活動

- ・西館小学校、比内支援学校、郵便局との継続した交流ができた。
- ・職員による交互の授業参観など幼保小連携が円滑であり有意義であった。

令和4年度社会福祉法人大館感恩講奨学基金事業報告書

小学校・中学校・高等学校の新入学児童と高等学校を卒業した就職者に対し、奨学基金から「入学等お祝い金」を、理事長からとしたお祝いのメッセージカードを添えて支給した。また、支給時期を3月中として受給者の利便性を図った。

令和4年度の支給内容は次のとおりである。

小学校入学者	2名	$50,000 \times 2 =$	100,000
中学校入学者	2名	$70,000 \times 2 =$	140,000
高等学校入学者	2名	$100,000 \times 2 =$	200,000
就 職	1名	$100,000 \times 1 =$	100,000
合 計	5名		540,000

基金残高 2,725,000 円

令和4年度 社会福祉法人大館感恩講収益事業報告書

定款第 36 条の規程に基づき、社会福祉事業に資するために次の収益事業を行った。

1. 所有地の貸付業

大館市南神明町 4 番 1 ほか、計 14 筆 宅地 8,738.71 m²を 2 法人 11 個人に賃貸した。
(平均地代 坪 1 ヶ月当たり 182 円)

なお、遊休地の一部については駐車場として賃貸し増収を図った。

令和 4 年度 地代収入決算額 3,275,400 円

※日本コンプリート (オナリ座) との契約の交渉が課題となっていたが、地代月額 1 万円での契約をすることができた。

2. 駐車場業

大館市字長木川南 16 番ほか 計 3 筆 宅地 1,033.26 m²を 35 区画に分割し、月ぎめ駐車場として賃貸した。1 区画あたり賃貸料は月額 3,000 円とし、近隣同業者との競争力を高めている。夏は除草を行い、冬の積雪に対し除雪ローダーによる除雪を行い利用者の利便性を高めた。

令和 4 年度 駐車料決算額 833,500 円

延べ利用台数 287 台 (月平均 23.9 台)

3. 収益金の処分

定款第 37 条の定めにより、収益金は全額社会福祉法人大館感恩講本部拠点区分に繰り出した。

令和 4 年度 本部拠点区分繰入金支出決算額 1,787,201 円